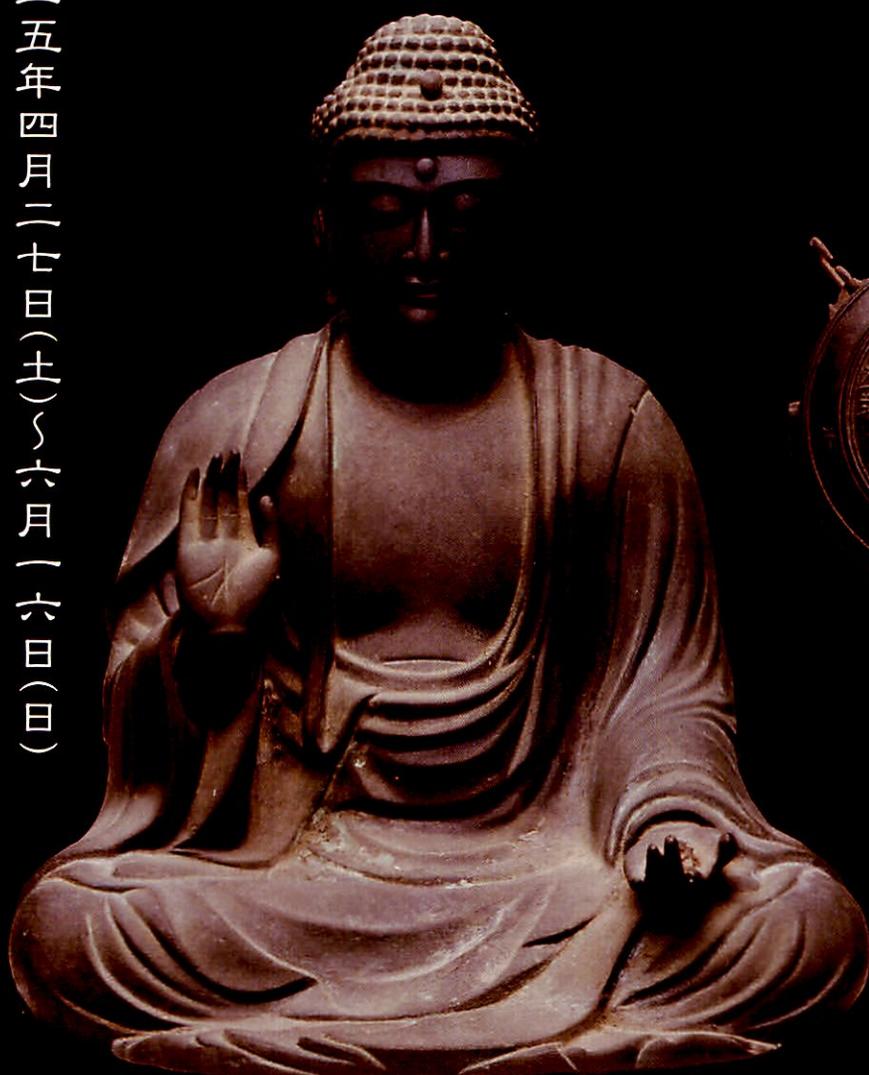


企画展

霊峰鳥海に祈る人びと

平成二五年四月二七日(土)～六月一六日(日)



銅造薬師如来坐像(龍頭寺)



鐺口(鳥海山大物忌神社)

入館無料

展示協力: 由利本荘市 にかほ市 遊佐町
写真提供: 東北歴史博物館

展示解説 (当館学芸職員)

4/27 5/3,18 6/2,16

「靈峰鳥海に祈る人びと」

平成25年4月27日(土)~6月16日(日)

鳥海山は秋田県と山形県の県境にまたがり、日本海に直接ゆるやかな裾野を落とす独立峰です。この山は古代、大物忌神が鎮座する国家を護る山として高い位階を与えられていました。また山から流れ出る水が、ふもとの田畑をうるおし、人々に多くの恵みを与えてくれることから、この山は農業神としても信仰されてきました。

古代から中世にかけて修験道が広まってくると、鳥海山は修行の山となるとともに、薬師如来を祀る山として広く信仰の対象となりました。

江戸時代になると幕府の宗教政策の中で、修験者は京都の聖護院(本山派)か醍醐寺三宝院(当山派)のいずれかに属することになり、各地を遊行することが多かった修験者は地域社会に定着してきました。当時の仏像や文書資料からは、鳥海山が人びとにいか信仰されていたかを知ることができます。

本展では鳥海山の信仰に関する資料約100点を鳥海山を描いた江戸時代から現代までの絵画とともにご覧いただきます。



比良衛・多良衛像(個人蔵)
比良衛・多良衛兄弟は美濃国から来て、嘉祥3(850)年鳥海山の麓から山頂への小道をひらいたと伝えられています。



象潟図屏風(右隻)(にかほ市象潟郷土資料館蔵 秋田県指定有形文化財)
文化元(1804)年の地震で陸化した象潟が、八十八潟九十九島と呼ばれる景勝地であった頃を偲ばせる作品です。江戸時代、本荘藩の御用絵師牧野永昌が描きました。



木造十二神将像のうち日神像
(森子大物忌神社蔵)
滝沢修験の拠点となった森子大物忌神社に伝わる十二神将像です。



罎口
(鳥海山大物忌神社蔵 山形県指定有形文化財 写真提供:東北歴史博物館)
暦応5(1342)年藤原氏が息災延命を願い寄進したと伝えられ、「鳥海山」の文字が記された初見資料です。

銅造薬師如来坐像
(龍頭寺蔵 遊佐町指定有形文化財)
薬師如来を本地仏とする鳥海山の山頂に祀られていたと伝えられる像です。

このイベントは宝くじ
収益金の一部で実施さ
れています。
秋田県

秋田県立博物館

〒010-0124 秋田市金足鴻崎字後山52 Tel:018-873-4121 Fax:018-873-4123
休館日:月曜日(祝祭日の時は翌平日※ただし4月30日は臨時開館) 開館時間:9:30~16:30

